

2023年(令和5年) 7月31日 月曜日

大阪で生産性向上セミナー 折り鶴で品質管理の重要性学ぶ

全国CCC工組・関西CCC工業会

竹林・関西CCC会長



全国コイルセンター工業組合と関西コイルセンター工業会の共催による「生産性向上セミナー」が28・29日、大阪市中央区の鉄鋼会館で開かれた。全国から3社7人の現業職が参加。新聞紙で折り鶴を作る体験などを通して、生産性や品質管理

の重要性を学んだ。

同組合によると、セミナーは2019年以来4年ぶり。新型コロナウイルス禍を除き、東京と大阪の2カ所ですべて毎年実施している。

セミナーは若手・中堅社員が対象で、関西や東海地区などから22・42歳の現業職7人が参加。中小企業を中心

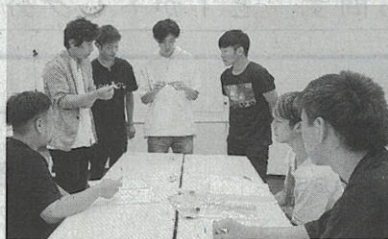


石崎技術委員長

とした製造業の収益改善・生産管理などを専門とする西田経営技術士事務所の西田雄平代表取締役が講師を担当した。

最初に同工業会の竹林泰治会長(福栄鋼材社長)が「学んだ内容を各社で持ち帰っていただき、ご自分の会社の生産性向上や分析において戦力になっていただきたい」とあいさつ。同工業会の石崎順技術委員長(JFE商事甲南スチールセンター社長)も「生産性が高い会社は5S活動を行い業績も良い。社員

相手グループの折り鶴の品質を丁寧に確認する参加者



への待遇も良くなる。生産性向上について体感して学んでいただけたらと呼びかけた。

1日目は参加者を2グループに分け、新聞紙・ハサミ・筆記用具を使用して、制限時間内に指定された複数サイズの折り鶴を作成。

他グループの折り鶴の品質管理などを行った。また材料、労働、設備それぞれの生産性、歩留まり、多品種少量化について座学で学んだ。参加者の1人、JFE商事甲南スチールセンターの國眼謙士郎さんは「折り鶴をきれいに折るのが難しかった。現場での考え方と違うものが多く、事務職の方が普段考えていることなどを知ることができた」と話していた。

2日目は応用編と題し、レゴブロックを用いた体験を実施。生産性向上の技術を体得した。セミナーは9月に東京でも開催予定。